

# 資料館だより

## CONTENTS

- 1… TOPICS
- 2… 展示活動報告／参加報告
- 3… 来館者
- 4… 開催案内／土・日曜日開館

「縄文土器片」  
(縄文時代中期、  
第四高等学校旧蔵)

## TOPICS

### 小学生が「縄文時代のあみもの」を体験



8月21日に、初の試みとして、主に小学生を対象とした夏の考古学ワークショップ「縄文時代のあみもの体験」を開催しました。当日は、午前の部と午後の部の2回に分けて、合わせて12組28人の小学生と保護者らが集まり、作品づくりを行いました。

これは、資料館に昨年度から松永篤知特任助教が着任したことに伴い、同氏の専門である編物を中心とした研究をわかりやすく子供たちに紹介して考古学への関心を持つきっかけになることを意図して企画したものです。

最初に、展示室において松永特任助教から展示資料に基づき、縄文時代の生活と道具について説明しました。その後、ワークショップ会場に場所を移して資料館が有する縄文土器とその底部に残された編物の圧痕について、どのようにしてこれらの跡が付いたのか、また、圧痕の原体となった編物がどのように作られていたのかについて解説をし、クラフトバンドを用いて当時の編み方を指導しました。

参加者は、縄文時代の編み方には、地域や時期によって様々なパターンがあること、さらに、当時の編み方や素材選択が現在の工芸品に引き継がれていることを学んだ上で、それぞれが思い描く作品(コースター)にふさわしい編み方と色の組合せを選び、完成した作品を持ち帰りました。



## 展示活動報告

春季  
企画展

### 「金大資料館コレクション展2018：保存と修復」開催

会期 平成30年3月28日～平成30年7月4日 会場 資料館展示室



テレビ取材撮影の様子

毎年春に開催している企画展は、資料館が所蔵する資料に関連するテーマを設定し紹介する展示をしています。本年度は「金大資料館コレクション展2018：保存と修復」と題して、様々な資料に応じた保存と修復方法について紹介しました。

今回は、平成29年度に修復した「新刻日本輿地路程全図」のお披露目を兼ねて、これに平成28年度に修復した「人体局所解剖図」も併せて展示し、これらの紙資料の修復を手掛けた石川県文化財保存修復工房の協力を得て紙資料の修復方法を道具と動画で紹介しました。また、学内からは、環日本海域環境研究センター臨海実験施設及び国際基幹教育院の協力を得て、生物資料の保存方法として従来からある液浸標本、乾燥標本に加え、新しい技術のプラスチック標本を紹介しました。加えて、埋蔵文化財調査センターの協力も得て、考古資料の保存と復元についても紹介し、多くの皆様にご覧いただきました。

夏季  
企画展

### 「お雇い外国人と石川の近代教育 ～ランバート、ホイットニー、ウィンの仕事～」開催

会期 平成30年7月11日～平成30年9月12日 会場 資料館展示室

平成30年1月から2月にかけて、石川四高記念文化交流館で北陸学院ウィン館及び石川県立自然史資料館との連携企画展を開催したところですが、展示資料の見直しを行った上で、当館主催の夏の企画展として開催しました。

これは、冬の連携企画展の開催期間が大雪となったにも関わらず、予想以上の入場者数があり好評だったため、キャンパス内の学生及び教職員にも本学の前身校の草創期を3人のお雇い外国人の働きを通して紹介しようとしたものです。

開催期間中にはキャンパスビジットもあり、本学学生のみならず、多くの高校生と保護者にも展示をご覧いただきました。「歴史があり、今があるということを再認識した。恵まれた環境であることを覚えて(金沢大学で)勉強してほしい。」との、遠方から来場された保護者の感想もありました。



## 参加報告

### 大学博物館等協議会・日本博物科学会

今年の大学博物館等協議会・日本博物科学会は、6月21日・22日の両日、香川大学幸町キャンパスで開催されました。初日のシンポジウムでは、「大学博物館と地域との連携」というテーマで講演とパネルディスカッションが行われました。当番校である香川大学からは、学内の研究成果をベースに、地域の産業界や来館者とのコミュニケーションによって創り上げた企画展について具体的な取組みが紹介され、大学博物館の地域連携事業の多様なあり方を学ぶことができました。

また、当館の松永特任助教が、「金沢大学における資料館・埋蔵文化財調査センターの連携」のタイトルで口頭発表しました。



## 中国からの短期留学生が資料館を見学

7月5日に、夏期短期留学プログラムで来学中の中国天津市にある南開大学の学生等が資料館を訪れました。学士課程2年生14名(男子2名、女子12名)と教員2名の合わせて16名が展示室を見学しました。

日本学科の学生ということで、常設展を中心に日本語での解説となりましたが、大学の沿革や前身校の資料についての説明を熱心に聞き入っていました。

特に、志賀町酒見龍護寺から寄贈された平安時代の木造仏及び師範学校旧蔵の当世具足(加賀藩直臣の合印「金猪目」の前立てがある甲冑)には多くの学生が興味を示していました。



## 駐日ホンジュラス大使 アレハンドロ・パルマ・セルナ氏来館



7月12日には、特別講演会「ホンジュラスー日本の二国間関係の展望とユネスコ事業について」のために来学された駐日ホンジュラス共和国特命全権大使のアレハンドロ・パルマ・セルナ氏が来館されました。

常設展の加賀藩校扁額「明倫堂」及び「経武館」をじっくりと見学され、第四高等学校旧蔵の考古資料についても産地や使われ方について質問されていました。

企画展ブースでは開催したばかりの企画展「お雇い外国人と石川の近代教育」もご覧になりました。

## マケドニア共和国オブリド・アイコン美術館 ミルチョ・ゲオルギエフスキ氏来館



同じく7月12日に、マケドニア共和国オブリド・アイコン美術館の顧問学芸員であるミルチョ・ゲオルギエフスキ氏が人間社会研究域の菅原裕文准教授の案内で来館されました。同氏は、本学の超然プロジェクト「文化資源マネジメントの世界的研究・教育拠点形成」の事業で来学されたもので、菅原准教授と熱心に見学されました。

## 大学コンソーシアム石川の授業を受講する学生が展示室を見学

8月9日に、大学コンソーシアム石川の授業「金沢の歴史と文化」を受講する学生11名が資料館を見学しました。同授業は金沢市内の文化施設を巡り、学芸員による講義を聴くとともに、施設見学をすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解し、文化施設の有効性や文化行政について理解を深めるという趣旨で開講され、金沢大学はその講義の最終回を飾る施設となりました。

学生たちは中央図書館の3階にあるAV室で資料館の施設、組織、事業、コレクションについての松永特任助教の講義を受けた後、展示室を見学しました。前身校である金沢高等工業学校の講堂に設置されていたシャンデリアは資料館コレクションの中でも特に巨大なもののひとつであり、訪れた参加者は一様に見入っていました。



## 開催案内

### 特別展

#### 「石の博物誌」

会期 平成30年9月19日～10月28日 会場 資料館展示室

平成28年度資料館特別展は、「ガラスの博物誌」と題して人工的な物質である“ガラス”をテーマに開催しましたが、平成30年度は、“博物誌”シリーズの第2弾として「石の博物誌」と題して、天然物の代表ともいえる“石”をテーマに開催を企画しました。

本展覧会では、平成28年度に金沢大学を会場に開催された日本鉱物科学会総会において日本の石“国石”に選ばれた「翡翠(ひすい)」を中心に“石川県の石”に選定された「珪藻土(けいそうど)」及び「霰石(あられいし)」、北陸の鉱山と鉱石、石からできた考古資料並びに岩石鉱物標本を展示・解説します。多くの方のご来場をお待ちしています。



### 特別講演会

#### 「国石翡翠の価値」 フォッサマグナミュージアム 上席学芸員 宮島 宏

会期 平成30年10月15日(月) 15:00～16:15 会場 中央図書館AV室

特別展と連動して、翡翠で有名な新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムの前館長で現在も同館の上席学芸員をされている宮島宏先生をお迎えして、翡翠が日本の国石に選ばれた学術的価値や日本人とのかかわり等について、お話しいたします。ぜひお越しください。

## 土曜日・日曜日開館を臨時に実施

資料館では、中央図書館の協力を得て、特別展の開催期間(9月19日～10月28日)のうち、夏休み明けの土曜日及び日曜日の臨時開館を次のとおり実施します。

多くの皆様のご来館をお待ちしています。

#### ＜特別展開催期間中の開館日・開館時間＞

平日 10:00～16:00  
土・日 9:30～16:00(9/29～10/6, 10/13～10/28)  
休館日 9/22(土)～9/24(月), 10/7(日)～10/8(月)

### 編集後記

この夏は例年になく異常気象で酷暑が連日続きました。

しかし、資料館展示室は、昨年度に空調設備を一新したこともあり、概ね快適な環境を維持することができました。

これは、空調設備の更新以外でも資料館職員が炎天下に総出で屋上に上がり、展示室の天窓をプラスチックペニヤで遮光した努力の結果でもあると自画自賛しています。(土田 浩)

### 金沢大学資料館だより

第57号 平成30年9月26日発行



発行/編集 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町  
TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050  
Mail museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

<https://museum.kanazawa-u.ac.jp>